１月８日のメッセージ

聖書：ルカによる福音書　3：　15－22

「聖霊が降ってきた」

イエスの公生涯は、イエスが洗礼を受けられる場面で始まります。

毎度のことながら、この場面にはいつも疑問が伴います。なぜ、神の独り子であるイエスが洗礼を受ける必要があるのでしょうか(「そこで、ヨハネは皆に向かって言った。『わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。』」ルカによる福音書 3:16)。

ヨハネが伝えていたのは悔い改めの洗礼でした(「そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。」ルカによる福音書 3:3)。ここで言う悔い改めとは、神の許に立ち帰ることです。神と共に歩む歩みへと引き戻されることです。だから、神の子であるイエスには当然、必要ないもののはずでしょう。

しかし、イエスは洗礼を受けられるのです。

よく言われる理由は、「完全な人として地上に来られたのだから、人間と同じように悔い改めの洗礼を受けることで道を示された」というものです。確かにその面はあるでしょう。イエスが洗礼を受けられたように、私たちも自分自身の罪の悔い改めのために洗礼を受けたはずです。新たに生き直すために洗礼を受けたはずです(「あなたは御自分の息を送って彼らを創造し／地の面を新たにされる。」詩編 104:30)。それは大変ありがたいことです。

だが、本当にそれだけなのでしょうか。イエスが先立って歩まれるのは、罪の悔い改めのためだけなのでしょうか。

ペトロはイエスについて、「神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました」(使徒言行録 10:38)と言っています。

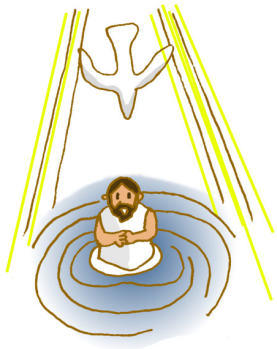
「イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。」(ルカによる福音書 3:21-22)

そう、イエスの洗礼は悔い改めと同時に、油注がれた者＝王としての即位でもありました。もちろん、それは「向かうところ敵なし」という王ではありません。徹底的に弱い者に寄り添い、助けられる王です。

しかも、その道は十字架上の死と復活へと続く、誰一人通ったことのない道です。神は、聖霊によってその道を指し示されます(「そうすれば、これまで一度も通ったことのない道であるが、あなたたちの行くべき道は分かる。」ヨシュア記 3:4)。道なき道を歩み通す力を聖霊によって与えられるのです。

そしてイエスは、この洗礼からその歩みを始められました。私たちの先頭に立つ歩みを始められます。

後に続く者、皆が罪の赦しを受けられるように(「また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」使徒言行録 10:43)。聖霊を受けた者たちが、力強く神を賛美し、与えられた道を歩み通すことができるように(「ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。」使徒言行録 10:44)。まだ通ったことの無い道を安心して歩み通すことができるように。



その恵みを、喜びを知った私たちは、今日もまた、イエスに従う決意を新たにするのです。